

2007年12月5日
株式会社三和化学研究所

初めて食後の血糖管理機能を搭載した、測定時間 5.5 秒の 小型血糖測定器「グルテスト Neo スーパー」を新発売

株式会社三和化学研究所(本社/名古屋、社長/山本一雄、スズケングループ)は、従来の機種にない食後の血糖管理機能を搭載し、測定時間も5.5秒に短縮した小型血糖測定器「グルテストNeo(ネオ)スーパー」を新発売いたしますのでお知らせします。

糖尿病患者は全国で740万人、予備軍を含めると1620万人といわれ(平成14年度 厚労省 糖尿病実態調査報告)、毎年確実に増加すると予想されております。一方、動脈硬化の進展は、空腹時血糖がそれほど高くなくても食後の軽い高血糖があるだけで、心血管疾患イベントのリスクが高くなるのが近年明らかになってきました。国際糖尿病連合(IDF)は、「食後血糖管理ガイドライン」を公表し、食後2時間血糖値を140mg/dL以下に維持するよう勧告しています。

「グルテスト Neo スーパー」は、近年話題となっています食後の血糖管理に必要な機能を搭載し、食事開始の時間や、食後の経過時間が180分まで表示できます。また、5.5秒の迅速測定を可能にすると共に、より安全・安心にご使用頂くために、ワンタッチでセンサーを廃棄できるレバーを搭載いたしました。患者さんはもちろん、医療従事者の血液汚染の可能性を防止することが期待できます。

【グルテスト Neo(ネオ)スーパー】の特長

- ・ 食事開始時刻から180分までの経過時間を測定結果とともに表示できます。
- ・ 測定時間5.5秒、検体量は0.6μLと微量血液で迅速に測定できます。
- ・ センサー廃棄レバーの搭載により、血液の付着したセンサーに触れずに廃棄できます。
- ・ ヘマトクリット値の影響を回避します。
- ・ マルトース、ガラクトースなどの影響を回避します。

新発売日： 2007年12月10日(月)
希望小売価格： グルテストNeo スーパー 1台 9,450円(税込み)
製造販売元： パナソニック四国エレクトロニクス株式会社
販売元： 株式会社 三和化学研究所
別添： 添付資料 1枚

また、今般血糖自己測定において、より痛みの少ない採血が期待できる、世界で最も極細針となる「SKKブラッドランセット33G」も同時に新発売いたします。

【SKKブラッドランセット33G】

新発売日： 2007年12月10日(月)

希望小売価格： ブラッドランセット33G 25本入り 525円(税込み)
30本入り 630円(税込み)

製造販売元： 株式会社 旭ポリスライダー

販売元： 株式会社 三和化学研究所

<お問合せ先>

株式会社三和化学研究所 総務部広報室(宮原・森) TEL03-3232-2601

添付資料

(糖尿病治療における血糖自己測定の意義)

糖尿病は、欧米型生活様式の浸透にともなって患者数が増大しており、2005年厚生労働省の調査によると、国内の患者数は治療、未治療合わせて740万人、予備軍を合わせると1620万人と推定されています。

糖尿病治療の基本は、毎日の血糖状態をコントロールすることにあります。血糖を厳格にコントロールするには、血糖の動きをモニターし、コントロールがきちんとできているかどうかをチェックする必要があります。特にインスリン療法では、血糖の状態によって、インスリンや食事の調整、低血糖への対処が必要なため、きめ細かい血糖のチェックが必須です。日常生活でもそのチェックをできるようにしたのが、血糖自己測定です。医療機関しかできなかった血糖測定が、血糖自己測定の普及により自宅でも24時間いつでも測定でき、揺れ動く血糖をリアルタイムにとらえることができます。その血糖の値を治療にフィードバックすることが可能となっています。

実際にインスリンを自己注射している方は1986年4月の保険適用により、医師の指導監督のもと、自分で簡単に血糖測定ができる小型血糖測定器を用いて、日常の血糖コントロールを実施されています。血糖自己測定のデータはそのつど記録し、通院時に主治医と検討します。主治医は、そのデータと、通院時に測定したHbA1c検査などの結果を、総合的に判断して今後の方針を決め、治療法の修正の指示や次の目標を設定します。

一方、食後の血糖値が高いとHbA1cもコントロールし難く、また空腹時血糖がそれほど高くなくとも食後の軽い高血糖があるだけで動脈硬化が進展し、心血管疾患イベントのリスクとなっていることが近年明らかになってきています。

このような世界的流れの中で国際糖尿病連合(IDF)は、「食後血糖管理ガイドライン」を公表し、食後2時間血糖値を140mg/dL以下に維持するよう勧告しています。そのガイドラインの中で、もっとも実地的な食後血糖値の測定法として、血糖自己測定が推奨されています。血糖自己測定によって、糖尿病患者さんは自分の血糖値をリアルタイムに知ることができ、血糖コントロールに役立つとの記載があります。日本では、非インスリン療法患者さんはもちろんインスリン治療患者さんにおきましても血糖自己測定により食後の血糖を治療に活用している割合はまだ低いのが現状です。今後、幅広く血糖自己測定が普及していくことで食後高血糖がもっと治療対象としてクローズアップされることが期待されます。